

1 受賞団体・個人の名称

はやしのうえん

林農園 (千葉県佐倉市)

(問い合わせ先)

043-498-0389

(経歴)

昭和55年、有機農業取組み開始。

平成5年、日本有機農業研究会常任幹事に就任(平成20年より副理事長)。

同年より研修生の受入れを開始。

平成12年、近隣有機農業者等と共に千葉県有機農業推進連絡会を設立。

(受賞時の経営内容)

野菜類、小麦、大豆、キウイフルーツ等約80品目 2.2ha 労働力2名



2 生産面の取組

土づくり

・動物質原料の使用は最小限に抑え、植物質中心の原料で堆肥を作る。

・堆肥の基肥利用を基本とし、必要に応じ

ぼかし肥により補う等、作土が窒素過多にならないよう努めている。



病虫害防除の工夫

・約80品目、150品種の作物を連作しないよう、輪作体系を整備。

・混植、コンパニオンプランツの利用により、虫害や土壌病害を減らす。

・作物の原産地や好む環境を理解し、適期の栽培を実施。

・在来種、地方種の中から有機農業に向く品種を使用。

・60品種(作付面積の6割)を自家採種。

リサイクルの実践

・販売にはコンテナを利用。ポリ袋を使用する場合はレジ袋を再利用。

・地域の街路樹剪定枝やコイン精米所の米ぬか等を堆肥の原料とする。

・自家の鶏糞は、ぼかし肥や踏み床温床、追肥に利用。

・鶏の餌には、野菜の残渣や、消費者からもらっただし汁を取った後の煮干を利用。

・育苗期を除き施設は利用しない。防除のための資材も用いていない。

3 経営面の取組

消費者に直接販売

・近隣消費者85件に、2千円の野菜9~18品目のセットを週1回宅配。

・卵や大豆、人参ジュース等の加工品は別途注文により販売。

農産物の加工

・味噌、漬物、ジャム、ジュースや醤油を自家で加工。

4 取組の成果

持続的な有機農業の経営確立

・圃場面積2.2ha全てで有機農業を実践。

・化学肥料、化学合成農薬は使用せず、ビニール等の資材使用も最小限とすることで、粗経費を売上高の3割に抑えた収益率の高い経営を行う。

担い手の育成

・延べ40名以上の研修を行い、そのうち6割は就農。

・住み込みで研修を受けられるよう、敷地内の研修棟を整備。

・農地の確保に当たり、農業委員会との橋渡しを行う。

・「有機農業実践教室」等の開催、関連著書の出版により有機農業を普及。

5 地域社会への貢献

消費者との交流

・消費者の在宅時間に宅配し、農産物の説明を行う。

・農園の様子やレシピ等のメッセージを、月1回農産物と一緒に届ける。

・年2回、消費者を自宅に招いて交流会を開催。



児童の農場見学

・地元小学生の宿泊体験や畑の見学等、体験学習の受入れを行う。

学校給食への利用促進

・近隣生産者と共同で、学校給食へ農産物を提供し、地産地消を促進。